

(第3種郵便物認可)

聞いてみた



フードプラス・ホルディンクス会長

中村 信機さん(74)

なかむら・のぶき 1943年佐世保市江迎町生まれ。慶応大卒業後に大手広告代理店に勤務。36歳で地元に戻って飲食業界に入り。92年に庄屋フードシステム社長。2016年4月に持ち株会社フードプラス・ホルディンクスを立ち上げ、現在は会長職。

今後の事業展開は？

レストラン「庄屋」などを運営するフードプラス・ホルディンクス(佐世保市)は、西日本を中心に和洋食の飲食店などを運営する。「食」と「サービス」を軸に事業展開するトップにこれまでの歩みと今後の展開を聞いた。

(阿比留北斗)

柔軟対応で全国進出

兄が故郷の江迎店で開いていた食堂が庄屋の原点で、1979年に新店舗開業に合わせて帰郷して以来、飲食業に携わってきました。現在、飲食店は和洋の各店をそろえ、西日本を中心に約140店舗を展開。佐世保市内に2カ所、松浦市内で1カ所のホテルも経営し、佐世保重工業などと提携して給食事業も手掛けています。

グループ全体で6年連続の増収増益を続け、2017年3月期の売上高は約120億円、経常利益は約5億円。昨年4月にはグループの持ち株会社も設立しました。

兄が故郷の江迎店で開いていた食堂が庄屋の原点で、1979年に新店舗開業に合わせて帰郷して以来、飲食業に携わってきました。現在、飲食店は和洋の各店をそろえ、西日本を中心に約140店舗を展開。佐世保市内に2カ所、松浦市内で1カ所のホテルも経営し、佐世保重工業などと提携して給食事業も手掛けています。

グループ全体で6年連続の増収増益を続け、2017年3月期の売上高は約120億円、経常利益は約5億円。昨年4月にはグループの持ち株会社も設立しました。

「口下手で商人向きではないですが、人の話を聞くことは好きでした。自然と、固定観念なく相手に合わせて柔軟に対応する姿勢が身に付いたかもしれません。さまざまな形態の飲食店を開業してきたのも柔軟に発想してきたためで、事業拡大につながりました。約20年前、大分県別府市で大型商業施設が進出する際、庄屋が入居していた近隣デパートから「商業施設への出店は控えて」と言われました。絶対の商機ですが付き合いも大事。そこで庄屋とは別の名前の定食屋を出しました。「庄屋ブランドにこだわらぬ」との考えのままなら発展はしなかったと思います。狭い立地の場合、グループ内の天ぷら店などを出すなど臨機応変に対応できています。

合併・買収(M&A)によってホテル経営にも携わるようになりました。同じサービス業なので違和感はありません。食材調達を一括化してコストが減り、適材適所の人事交流も進みます。今年2月には、「ゆめタウン」を運営する総合スーパーのイズミ(広島市)の関連会社と、当社の「定食屋百菜 旬」運営でフランチャイズ(FCC)契約を結びました。FCC化をてこに全国展開も目指します。

飲食業界の人材不足に当社も直面していますが、「佐世保に根付いた飲食・サービスの総合企業」との強みを生かしてこの課題を乗り越え、数年後には株式上場を果たしたいと思っています。